

データベースとしてのWWW

村木征人（筑波大学体育科学系助教授）、伊藤浩志（同大学院体育研究科）
インターネットはテレビ・新聞・雑誌等に代わる巨大な情報メディアである。全世界から発信される情報をただ眺めているだけでも楽しいが、目的を持ってアクセスすればもっと利用価値の高いものになる。今回は、各種ホームページのデータベース的な側面が紹介される。

前回までは総論的に、インターネットの仕組みや利用方法、そして、その中でも代表的なサービスであるWWW（ホームページ）を取り上げ、ブラウザソフトの使い方、効率的な情報の収集方法、スポーツに関連するホームページを集めたサイトをいくつか紹介しました。

自分のお気に入りページは見つかったでしょうか？ 中には次々と現れる多種多様なホームページに時間が経つのも忘れて見入ってしまったという方もいるかもしれません。しかし、高度に成長を続けるインターネット上にはまだまだ、いろいろなホームページが眠っています。そこにはきっと魅力的な情報を持ったページもあるはずです。そこで今回は各論的に、WWWのデータベース的な側面を紹介していきたいと思います。

INTERNET is Inter Net

インターネットの最大の利点の1つは全世界にコンピュータによるネットワークが広がっているということです。そのことは同時に、瞬時に世界中の情報が手に入られるということの意味します。

また、その他にも利点は存在します。図書館はそこへ行けば、数多くの本や雑誌の中から自分の知りたいと思う情報を得ることができますが、

休館日には利用することができません。一方、WWWの中の図書館（ここでは国立国会図書館のホームページを紹介しておきます）では膨大な数のデータから24時間絶え間なく情報を検索して手に入れることができます。つまり、WWWは最新の情報が欲しいときに、そして、瞬時に手に入れることができるということです。

WWW上の情報展開

スポーツの世界においても情報というのは非常に価値のあるものです。では、体育・スポーツに関連するデータが、WWW上でホームページを利用してどのように展開されているかを見ていきたいと思います。

今年は、4年に一度のオリンピックイヤーでした。もちろんそのオリンピックにおいてもインターネットは重要な役割を果たしていました。その代表的な例としては大会結果をどんなメディアよりも早く全世界へと伝えていたということがあります。日本では時差の関係上、テレビの中継がリアルタイムに行えないということもありましたが、ホームページには数分前に終わった競技結果が時々刻々と掲載されていたり、また、あまりテレビや新聞などでは取り上げられないような競技種目の結果も網羅されていました。

大会の競技結果以外にも、大会前

の聖火リレーの状況が写真入りで紹介されたり、選手それぞれのプロフィールやオリンピックの歴代記録など様々なデータを知ることができました。さらに、陸上競技ではいくつかの世界記録が誕生しましたが、その瞬間の様子が動画で提供されており、テレビメディアの利点である映像という面でもインターネットは引けを取るものではありませんでした。

アトランタ・オリンピックが閉幕してまだ数カ月ですが、すでに長野 (<http://www.linc.or.jp/Nagano/index-j.html>) やシドニー (<http://www.sydney.olympic.org/>) はもちろん、2002年のソルトレイク冬季オリンピックの公式サーバ (<http://www.thoughtport.com/olympics/>) まで情報を発信し始めています。

大会結果などの速報はオリンピックに限ったものではありません。海外では、テニス全英オープン (<http://www.wimbledon.org/index.html>) やサッカーのワールドカップ (<http://www.fifa.com/france98/index.france98.html>) など、国内では広島アジア大会 (<http://www.hiroshima-cu.ac.jp/japanese/ASIA/index.html>)、福岡ユニバーシアード (http://university.fjct.fit.ac.jp/index_j.html)、世界体操・鯖江大会 (<http://www.pref.fukui.jp/japanese/wgc.html>) や山梨インターハイ (<http://www.yamana-shi21.or.jp/~inter-high/>)、国体などの大規模な大会から地域の各種スポーツ大会までこうしたサービスが提供されています。また、これらホームページには競技

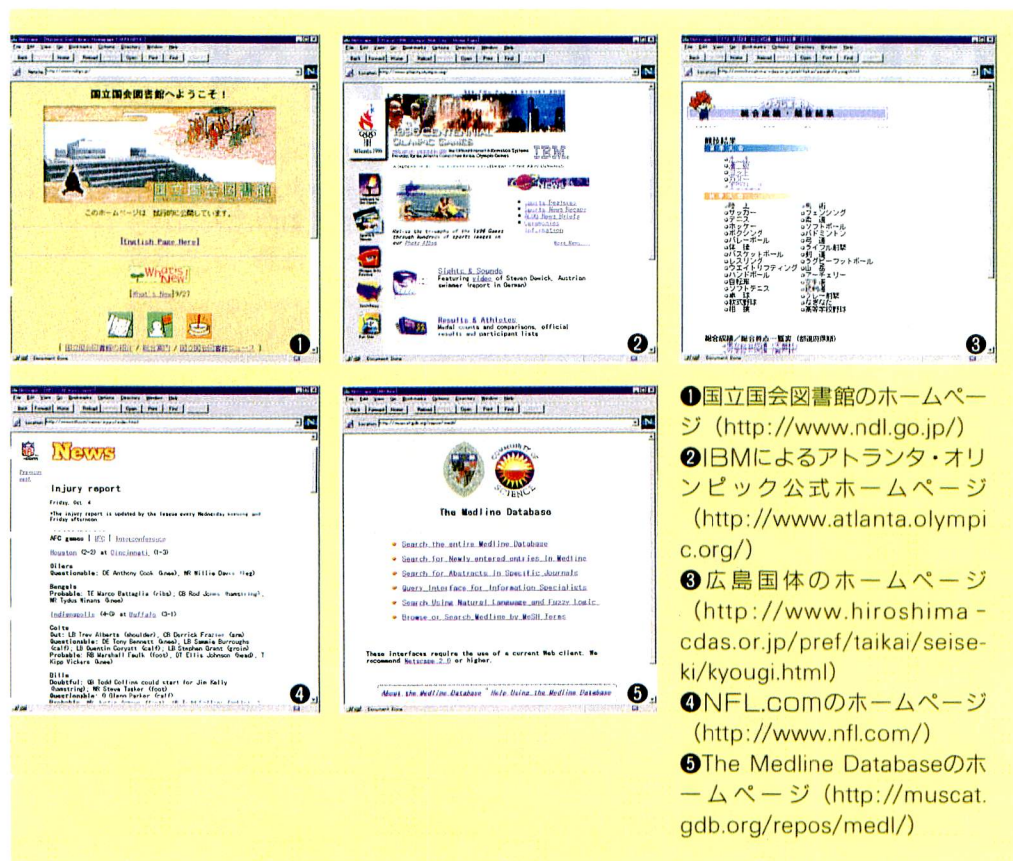


図1 文中で紹介した主なホームページの画面とURL

日程や会場、交通アクセス案内、選手村・宿泊ホテル案内などの詳細な情報も紹介されていますし、過去の大会の競技結果を含んだものもあります。単に結果を文字として伝えるだけではなく、大阪国際女子マラソン(<http://www.ktv.co.jp/marathon/index-j.html>)や夏の高校野球甲子園大会(<http://www.japan.park.org/Japan/Panasonic/events/indexj.html>)などでは大会当日にホームページ上で動画を利用してインターネットによる中継を行うという試みがなされていました。

データベースとしての利用価値

WWWには、データベースとして利用できる情報がほかにもあります。先に挙げた大会・競技会のホームページは大会運営組織が自ら開いているものですが、その他にも第三者

的に各種スポーツ種目の結果を集収したもの(例: SPORTS Quest, <http://www.sportquest.com/>)があり、そこには最新の情報はもちろん過去の情報や個人やチーム、プレーの種類など統計的にまとめられたデータが収められています。競技会の開催日程自体やセミナー、学会、その他スポーツイベントなどの情報を集めたホームページ(Sports and Exercise Science Web, <http://plaza2.mbn.or.jp/~aioproject/>)も利用価値は高いと思います。また、各種スポーツの歴史や名場面を集めたフォトギャラリーや全国各地のスポーツ施設(ジムの紹介: <http://www.infotrans.or.jp/~hideto/muscle/gym/gym.htm>)やスポーツクラブを検索できるページ、といったものもあり、それらもまたデータベースとして利用できるのではな

いかと思います。

データベースといえば毎年、国レベルでの各種統計調査が行われています。そして文部省や厚生省、総務庁統計局などの政府機関(一覧: <http://www.ntt.jp/SQUARE/Town/JP/gov.html>)では、それらのデータをインターネット上で公開しており、データベースとして利用ができます。インターネットであれば、日本の政府機関だけでなく情報公開が進んでいるアメリカの政府機関やWHO(<http://www.who.ch/>)などの国際機関にも簡単にアクセスすることができます。また、トレーニング場面に活かせる情報として、NFLのオフィシャルサーバであるNFL.comでは、試合中に発生した傷害を部位や発生機序など詳細に掲載しています。

初めに図書館のページによる情報検索を紹介しましたが、体育・スポーツ、医学、健康に限った文献を検索できるホームページがあります。スポーツに関する様々なデータを提供するSIRC社(<http://www.sirc.ca/>)ではオンラインでそうしたサービスが利用できます。Sports Discusというスポーツ関連の文献を集めたデータベースから、有料ですがインターネットを利用して検索ができます。また、医学関連の情報を集めたホームページであるThe Medline Databaseでは、膨大な数の文献の中から無料で著者、タイトル、出典、要約といった項目で検索することができます。

今回はインターネットのデータベースとしての利用方法を紹介しました。次回はより具体的に、また直接的にトレーニング現場に有効なホームページを紹介していきたいと思います。